

循環器科 専門医に聞く

富山労災病院

第二循環器科部長

やまだ くにひろ
山田 邦博

— 閉塞性動脈硬化症について —



『閉塞性動脈硬化症』という病名を耳にしたことがありますか？
この病気は動脈硬化から足の血管が狭くなったり、詰まったりすることにより生じます。症状は、歩行の際にふくらはぎの痛みやだるさが典型的なものです。進行すると安静時の足の痛み、足の潰瘍や壊疽(足が腐ってしまうこと)を生じます。最悪の場合は足の切断を必要とします。重症の閉塞性動脈硬化症の方は5年後までに44%の方が亡くなると言われており、大腸がんや乳がんよりも生存率が低い病気ですが、あまり知られてい

ません。年々患者は増加しており、日本には約660～760万人の閉塞性動脈硬化症の患者がいますが、実際に治療を受けているのは約100分の1の78000人です。

診断は、足の脈(足の甲の足背動脈、内側のくるぶしの後ろの後脛骨動脈)が触れるかどうか、上肢と下肢の血圧の比(足関節上腕収縮期血圧比)の測定、超音波検査、造影CT、血管造影で行います。治療には、運動療法、内服治療、カテーテル治療(風船治療、ステントという金網を留置する治療)、バイパス術があります。この病気は足の血管の動脈硬化が原因で生じますが、動脈硬化は足だけでなく、脳や心臓の血管にも生じています。そのためこの病気の方は、脳梗塞や心筋梗塞などの心血管の重篤な疾患を発症することが多々あります。当科では閉塞性動脈硬化症の方には足の血管造影CTだけでなく心臓の血管造影CTも受けていただいています。

当院には最新のCTが導入されており、足の血管と心臓の血管の造影CTを同時に撮影することができ、必要な方には足の血管および心臓のカテーテル治療を行っております。

糖尿病、高脂血症、腎不全の方および喫煙者がこの病気になりやすいと言われております。禁煙し、糖尿病および高脂血症の治療をきちんと受けていただくことが閉塞性動脈硬化症の予防と進展抑制に重要です。歩いたときにふくらはぎに痛みやだるさを自覚する方、すこしでも気になる方はお気軽にご相談ください。



ご質問やご相談は地域医療連携室まで、また富山労災病院ホームページもご覧ください。

発行：独立行政法人労働者健康福祉機構
富山労災病院 地域医療連携室
〒937-0042 魚津市六郎丸992

Tel: 0765-22-1354

Fax: 0120-935-631 (フリーダイヤル)

富山労災病院 救急外来からのお知らせ

富山労災病院では終日救急患者の診療を行っております。また、平日の午後5時以降および休日は救急外来を開設しており、病状により専門医師が診療いたします。

受診される場合22-1280までお電話下さい。